

午後 試験

全問に共通して、具体性があり、経験に基づいた論述が多かった一方、“論述の対象とする計画又はシステムの概要”、“論述の対象とする製品又はシステムの概要”が適切に記入されていないので評価を下げた論述が相当数あった。また、問題文を引用しているだけなど具体性に乏しい論述や、各設問で整合の取れていない論述が散見された。このような論述は、受験者の能力や経験を正しく評価できない場合があるので、実際の経験に基づき設問に沿って具体的に論述してほしい。

また、論述は第三者に読ませるものであることを意識してほしい。例えば、段落を分けることで何についての記述なのかを明確にする、業界特有の用語は説明を入れるなど、考えを的確に伝えるための工夫をしてほしい。

問 1（複数の業務にまたがった統一コードの整備方針の策定について）では、具体性があり、経験に基づいたと思われる論述が多かった。設問では、業務改善の目的、調査の視点、業務改善実現のための工夫などの論述を求めたが、業務改善のためではなくコードの統一自体を目的にするものや、業務と無関係にけた数などを調査しただけのもの、工夫点が業務改善と関係の薄いものが目立った。システムアーキテクトは、業務を理解して情報システムの構造を設計する役割をもつので、業務の視点からの論述を期待したが、そのような論述は少なかった。

問 2（システム間連携方式について）では、企業統合などの大規模なものから、小規模システム間でのデータ連携など多岐にわたる論述があり、様々な局面でシステム間連携方式の設計がなされていることがうかがわれた。設問では、単一のシステムだけでなく複数のシステムを意識した業務要件、システム要件、連携方式という多角的な論述を求めた。これは、システムアーキテクトが全体最適の観点からシステム構造を設計しなければならないからである。しかし、業務要件を論述せずにシステム要件や連携方式の説明に終始している論述や、業務要件とシステム要件を混同している論述が多く見られた。

問 3（組込みシステム開発におけるハードウェアとソフトウェアとの機能分担について）では、組込みシステム開発の具体的な経験を対象としている。今回のテーマである機能分担は、組込みシステム開発のシステムアーキテクトに求められる重要な能力の一つである。新規開発を除き経験する機会が比較的少ないテーマにもかかわらず、具体的な経験をうかがわせる論述が多かった。検討項目とその内容に関する記述については、検討内容に具体性が乏しく一般論に終始した論述が一部に見られた。また、実現可能性だけについて論述するものが散見された。現在の評価に関する記述については、多面的、客観的、具体的な論述を期待したが、そのような論述は少なかった。